



道の駅構想・子育て支援、 教育環境の充実について

さくら い え
櫻井 ひろ江 (日本共産党安中市議団)

道の駅構想について

問 令和2年6月議会に、「国道18号線沿いの道の駅設置及び災害時等の広域住民避難場所確保に関する請願」が郷原地域から出され採択されている。今回、横川への設置構想に至った経緯は。

答 (産業環境部長) 平成26年に郷原地域から市長への要望では、「国道18号道の駅設置及び郷原工業団地の促進」とあり、郷原は産業用地として決定し、横川には多くの観光資源があり観光振興の強化を推進できること、また、碓氷峠のふもとにあり防災の拠点としても適地であると考えています。

問 郷原地域への対応は。

答 (産業環境部長) 昨年10月に原市地区全区長へ、産業用地として開発していく方針を説明し、概ね同意をいただきました。

道の駅の機能について

問 平成26年の大雪で国道の交通がストップしたが、防災面では、ふもとより、もっと手前での対応が必要ではないか。

答 (産業環境部長) 碓氷バイパスに規制が引かれる始点は、国道18号の鉄道文化むら南信号先であり、規制区間の直前でUターンできる施設整備が最善と考えています。

問 地域の特産品等の販売も多くの所にある。一般に農産物の集荷に苦慮している話も聞く。農産物直売所等、地域振興施設の整備や運営方法などはどうか。

答 (産業環境部長) 農産物直売所は、地元関係団体等の協力も得ながら取り組む必要があり、今後道の駅の運営管理事業者を決定していく中で協議・検討を行っていきます。

その他、学校のトイレに生理用品設置についてと、子ども会・子ども会育成会について質問しました。



少子化対策・健康づくりの 推進・観光政策の推進につ いて

なが しま よう こ
長嶋 陽子 (公明党)

子育て支援策の充実について

問 未入园児の一時預かり事業の利用状況は。

答 (保健福祉部長) 令和3年度の実施施設は8カ所で、延べ人数で約700人が利用しています。

問 定期預かり事業実施の考えは。

答 (保健福祉部長) 国では令和5年4月から保育所の空き定員等を利用して未就園児の定期的な預かりをモデル事業として実施する見込みです。孤立する家庭の防止、育児負担の軽減及び虐待防止のために、定員に空きのある保育所等において、未就園児に対して継続して週1日から2日程度の定期的な預かりを実施するものです。保護者からの要望があり、制度に合致すれば、取り組んでいきたいと考えています。

健康づくりへの意識を高める取り組みについて

問 市民の健康づくりの意識向上を図り、健康増進活動の実践につながるよう、ポイント制度を導入してはどうか。

答 (保健福祉部長) 県が公式スマートフォンアプリ「G-WALK +」を令和3年度に構築し、健康ポイント制度事業として運用しています。全ての県民が健康づくりを実践できるよう推進していますので、県と連携して利用促進を図っていきます。

その他、1項目を質問しました。



一時保育を実施している施設 (まついだ保育園)